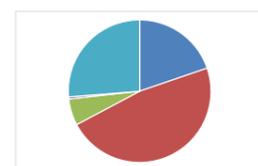
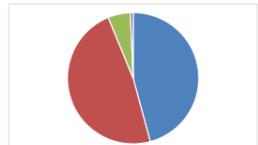
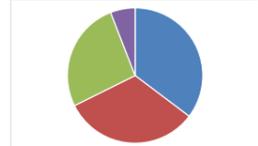
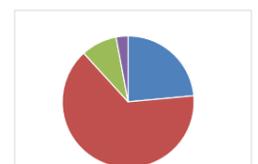
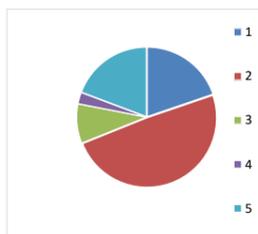
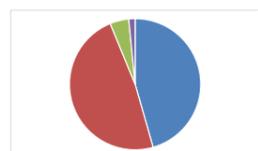
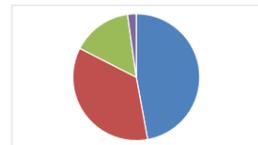
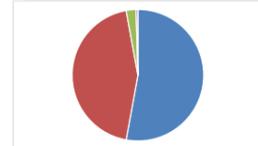
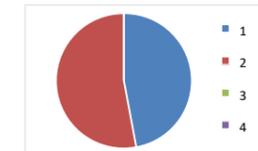
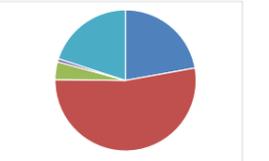
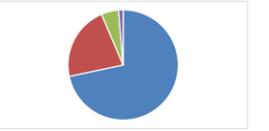
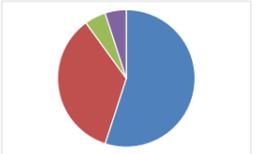
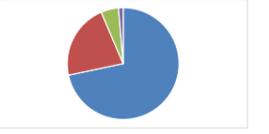
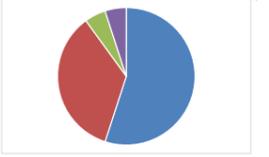


項目	具体的取組	アンケート結果		判定結果	R5年度	回答者
		人数	割合			
①基礎・基本の徹底	①授業や家庭学習を通じた、基礎・基本の習得のための指導を工夫している。	計34人		A+Bが100%	100%	教職員
	A あてはまる。	16	47%			
	B どちらかといえば、あてはまる。	18	53%			
	C どちらかといえば、あてはまらない。	0	0%			
	D あてはまらない。	0	0%			
	②学校の授業にまじめに取り組んでいる。	計452人		A+Bが97%	95%	生徒
	A あてはまる。	239	53%			
	B どちらかといえば、あてはまる。	200	44%			
	C どちらかといえば、あてはまらない。	11	2%			
	D あてはまらない。	2	0%			
	③学校の宿題などの家庭学習に、毎日取り組んでいる。	計452人		A+Bが83%	81%	生徒
	A あてはまる。	213	47%			
	B どちらかといえば、あてはまる。	160	35%			
	C どちらかといえば、あてはまらない。	69	15%			
	D あてはまらない。	10	2%			
	④学校の先生はわかりやすく教えてくれる。	計452人		A+Bが94%	97%	生徒
	A あてはまる。	206	46%			
	B どちらかといえば、あてはまる。	218	48%			
	C どちらかといえば、あてはまらない。	21	5%			
	D あてはまらない。	7	2%			
⑤学校は、授業や家庭学習を通して、十分な学習指導を行っている。(プリントやワーク、チャレンジ学習での反復練習など)	計415人		A+Bが69%	81%	保護者	
A あてはまる。	82	20%				
B どちらかといえば、あてはまる。	204	49%				
C どちらかといえば、あてはまらない。	38	9%				
D あてはまらない。	11	3%				
E わからない。	80	19%				
<p><成果> ○各教科で授業中に小テストなどの簡単な復習をしたり、適切な量の宿題を課すことで、基礎・基本の定着に力を入れた。 ○テスト前の質問会や学習会で質問に答えるだけでなく、不定期に質問会を行った。 ○テスト前には効果的な勉強法や勉強のポイントについて伝えることができた。</p> <p><課題> ○チャレンジ学習に対する意識の差が大きく、学力の向上や学習意欲の向上につなげていない生徒がいた。 ○課題の提出が遅れる生徒がおり、家庭学習への意識の差がある。</p>						
○引き続き基礎・基本の定着に力を入れながら、質問会も実施していく。また、力のつくチャレンジ学習の方法を説明し、効果的な学習方法について伝えていく。						
②生徒が主体的に取り組む、考えを伝え合い、高め合う授業の実現	①生徒が、主体的に取り組む、考えを伝え合い、高め合う授業づくりに努めている。	計34人		A+Bが88%	97%	教職員
	A あてはまる。	8	24%			
	B どちらかといえば、あてはまる。	22	65%			
	C どちらかといえば、あてはまらない。	3	9%			
	D あてはまらない。	1	3%			
	②月1回(年間10回)を目標に他の教員の授業を参観し、授業に関するコミュニケーションをとっている。	計34人		A+Bが68%	90%	教職員
	A あてはまる。	12	35%			
	B どちらかといえば、あてはまる。	11	32%			
	C どちらかといえば、あてはまらない。	9	26%			
	D あてはまらない。	2	6%			
	③授業に前向きに参加し、他の生徒と意見や考えを伝え合うようにしている。	計452人		A+Bが94%	94%	生徒
	A あてはまる。	207	46%			
	B どちらかといえば、あてはまる。	217	48%			
	C どちらかといえば、あてはまらない。	25	6%			
	D あてはまらない。	3	1%			
	④学校は、実験や実習、タブレットなどを取り入れ、生徒の興味や意欲を高めるような授業づくりに取り組んでいる。	計415人		A+Bが67%	67%	保護者
	A あてはまる。	82	20%			
	B どちらかといえば、あてはまる。	197	47%			
	C どちらかといえば、あてはまらない。	25	6%			
	D あてはまらない。	2	0%			
E わからない。	109	26%				
<p><成果> ○教員同士の授業参観ができるようにし、その感想を伝え合ったりコミュニケーションを取ったりできるようにした。 ○全校集会やホームページ等で、学校の学習指導について伝え、学習方法についてお便りを発行した。</p> <p><課題> ○多忙のためか教員同士の参観ができない教員がいる。 ○学校の学習指導に関して、「わからない」と答える保護者が多い。</p>						
○タブレットの持ち帰りをさらに進め、ICTを使って学習に取り組める環境を整備していく。また、タブレットを使って学べるサイトを伝えることで、予習・復習に役立たせる。 ○授業の参観をすすめ、短時間でもお互いの授業を見合ったり、授業に関するコミュニケーションを取ったりするように促す。						

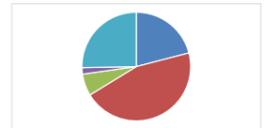
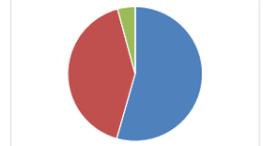
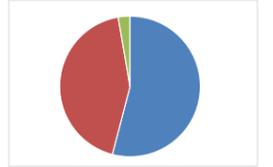
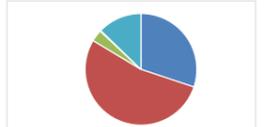
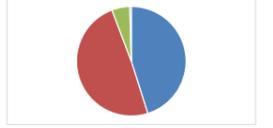
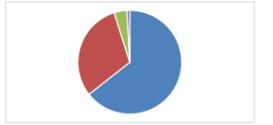
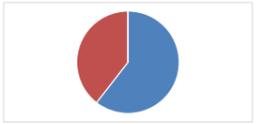
確かな学力



項目	具体的取組	アンケート結果		判定結果	R5年度	回答者		
		アンケート（設問と回答）	人数				割合	
確かな学力	③ ICT活用と視聴覚教育の推進、情報力活用能力育成	① ICT機器を活用した授業を週に1回以上実施している。	計34人		A+Bが79%	84%	教職員	
		A あてはまる。	9	26%				
		B どちらかといえば、あてはまる。	18	53%				
		C どちらかといえば、あてはまらない。	6	18%				
		D あてはまらない。	1	3%				
		②授業等で、タブレットを使用しての学習活動に慣れている。	計452人		A+Bが93%	94%	生徒	
		A あてはまる。	253	56%				
		B どちらかといえば、あてはまる。	168	37%				
		C どちらかといえば、あてはまらない。	26	6%				
	D あてはまらない。	5	1%					
	<p><成果> ○生徒がICTの活用に慣れてきており、タブレットを使って意見や感想を交流することで、生徒が自分の考えを深められるようになってきている。</p> <p><課題> ○教科の特性や教室の環境から、ICTを使った授業を行っていくことがある。</p> <p>○他校の指導主事訪問等の公開授業を積極的に参観し、ICTを使った授業設計に努める。</p>							
	確かな学力	④読解力育成を目指した読書活動の推進	①「読書」の時間の確保と充実に努めている。	計20人		A+Bが90%	100%	教職員
			1 あてはまる。	11	55%			
			2 どちらかといえば、あてはまる。	7	35%			
			3 どちらかといえば、あてはまらない。	1	5%			
4 あてはまらない。			1	5%				
②朝読書の時間で静かに本を読むことができている。			計452人		A+Bが94%	79%	生徒	
1 あてはまる。			324	72%				
2 どちらかといえば、あてはまる。			99	22%				
3 どちらかといえば、あてはまらない。			23	5%				
4 あてはまらない。			6	1%				
③学校は、朝読書・ホームページ・図書館便りなどを通して、生徒が本に親しむ取り組みを行っている。			計415人		A+Bが75%	69%	保護者	
1 あてはまる。			92	22%				
2 どちらかといえば、あてはまる。			220	53%				
3 どちらかといえば、あてはまらない。			17	4%				
4 あてはまらない。			3	1%				
5 わからない。	83	20%						
<p><成果> ○朝、静かに本を読むことができている生徒が大幅に増えた。</p> <p><課題> ○冊数調査において、朝読書を行っていても「1カ月に1冊も読まない」生徒が一定数いることがわかった。 ○図書館便りにて新刊図書やおすすめの本を紹介してきたが、保護者におたよりを見せていない生徒がいることも考えられる。 ○朝読書以外で、読書が苦手な生徒が本に触れる機会が減っていると考えられる。</p> <p>○これまでどおり、ホームページで図書館の取り組みなどを紹介していく。また、本年度新しく行った冊数調査も引き続き継続する。 ○学校行事や学校公開時に読書に関する啓発を発信することで、保護者に少しでも伝わるように努める。</p>								

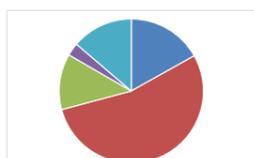
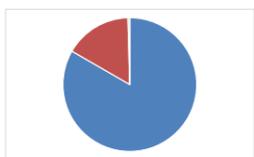
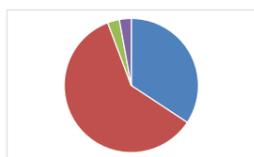
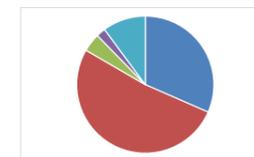
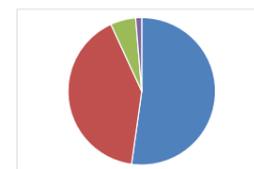
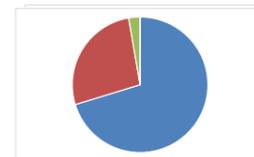


項目	具体的取組	アンケート（設問と回答）		アンケート結果		判定結果	R5年度	回答者
				人数	割合			
豊かな人間性	①挨拶を励行し、時間を守る礼儀正しい生徒の育成	①私は挨拶、時間を守った学校生活についての指導を積極的に行っている。	計38人			A+Bが100%	97%	教職員
		A あてはまる	23	61%				
		B どちらかといえば、あてはまる	15	39%				
		C どちらかといえば、あてはまらない	0	0%				
		D あてはまらない	0	0%				
		②自分から、進んで挨拶を行っている。	計452人			A+Bが95%	96%	生徒
		A あてはまる	291	64%				
		B どちらかといえば、あてはまる	139	31%				
		C どちらかといえば、あてはまらない	18	4%				
		D あてはまらない	4	1%				
		③時間を守って学校生活を送ることができている。	計452人			A+Bが94%	92%	生徒
		A あてはまる	204	45%				
		B どちらかといえば、あてはまる	222	49%				
		C どちらかといえば、あてはまらない	24	5%				
		D あてはまらない	2	0%				
		④学校は、挨拶や時間を意識した学校生活の指導を十分行っている。	計415人			A+Bが84%	77%	保護者
	A あてはまる	125	30%					
	B どちらかといえば、あてはまる	222	53%					
	C どちらかといえば、あてはまらない	14	3%					
	D あてはまらない。	1	0%					
E わからない。	53	13%						
<p><成果> ○普段から、先生方が挨拶指導を徹底しているおかげで保護者からのお褒めの言葉をもらっている。 ○生徒の時間を守る意識が高まり、登下校の時間を守る生徒が増えた。また、授業開始2分前着席ができる学級も増えた。 <課題> ○自分から進んで挨拶をしない生徒がいる。 ○時間を守ることの大切さを理解できていない生徒がいる。 ○2分前着席は静かに自習して待つことを徹底する。</p> <p>○委員会活動を通して生徒が主体となり、挨拶や時間を守られる生徒をさらに増やしていく。 ○2分前着席について、教員も早めに教室に行き、生徒の意識を高めさせられるようにする。</p>								
豊かな人間性	②無言清掃を通し、自分を見つめ、心を磨く生徒の育成	①毎日の清掃活動（無言清掃）に、生徒が時間いっぱい意欲的に取り組む指導を十分に行っている。	計37人			A+Bが97%	100%	教職員
		A あてはまる	20	54%				
		B どちらかといえば、あてはまる	16	43%				
		C どちらかといえば、あてはまらない	1	3%				
		D あてはまらない	0	0%				
		②時間いっぱい無言清掃に取り組むことができている。	計452人			A+Bが96%	97%	生徒
		A あてはまる	246	54%				
		B どちらかといえば、あてはまる	187	41%				
		C どちらかといえば、あてはまらない	19	4%				
		D あてはまらない	0	0%				
	③学校は無言清掃を通して時間いっぱいに取り組む指導をしている。	計415人			A+Bが66%	75%	保護者	
	A あてはまる	87	21%					
	B どちらかといえば、あてはまる	188	45%					
	C どちらかといえば、あてはまらない	27	7%					
D あてはまらない。	8	2%						
E わからない。	105	25%						
<p><成果> ○整美委員会の取り組みで少しずつではあるが、意識が高まってきている。 <課題> ○前期は生徒、教職員ともに無言清掃に対する意識が低くなっていた。 ○保護者に対する設問が答えづらい。また、生徒の様子を見ることができないので回答できない。</p> <p>○委員会活動を通して、生徒が主体になり、無言清掃を徹底してできる体制を整える。 ○保護者の設問を回答しやすいように変更する。</p>								



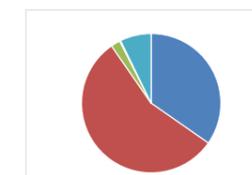
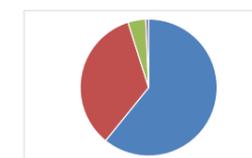
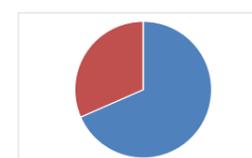
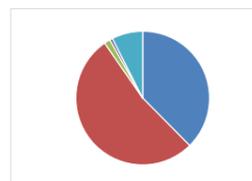
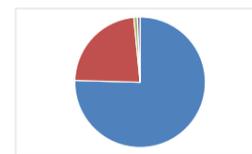
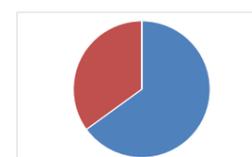
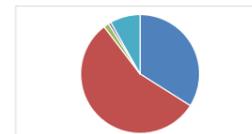
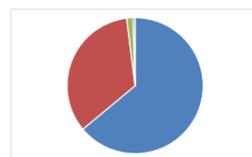
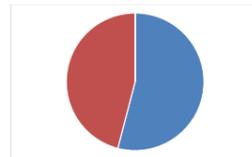
令和6年度 三国中学校 学校評価

項目	具体的取組	アンケート結果		判定結果	R5年度	回答者		
		人数	割合					
豊かな人間性	③いじめ・不登校の未然防止、早期発見・早期対応	アンケート（設問と回答）						
		①いじめや不登校の未然防止・早期発見・早期対応を常に意識し、迅速なチーム対応に努めている。	計37人		A+Bが97%	100%	教職員	
		A あてはまる	26	70%				
		B どちらかといえば、あてはまる	10	27%				
		C どちらかといえば、あてはまらない	1	3%				
		D あてはまらない	0	0%				
		②いじめを許さず、いじめに気づいたときはすぐに誰かに相談するようにしている。	計452人		A+Bが93%	93%	生徒	
		A あてはまる	236	52%				
		B どちらかといえば、あてはまる	185	41%				
		C どちらかといえば、あてはまらない	25	6%				
		D あてはまらない	6	1%				
		③学校はいじめや不登校の未然防止や早期発見のために、定期的に生徒・保護者へのアンケートを行い、早期対応に努めている。	計415人		A+Bが83%	79%	保護者	
		A あてはまる	131	32%				
		B どちらかといえば、あてはまる	215	52%				
		C どちらかといえば、あてはまらない	18	4%				
	D あてはまらない。	9	2%					
	E わからない。	42	10%					
	<p><成果> ○先生方の迅速な対応のおかげで、保護者の数値が上がっている。 ○ほとんどの生徒が、「いじめは絶対に許されない行為」という認識をしている。 <課題> ○どんなことが「いじめ」になるか理解していない。</p>							
	○今後も教育活動全体を通して、「いじめ」に関する指導・支援を徹底していく。							
	豊かな人間性	④ネット社会における情報モラルの向上	①スマホやタブレットなどを利用したインターネット上でのルールやマナーについて、指導を十分に行っている。		計35人		A+Bが94%	97%
1 あてはまる。			12	34%				
2 どちらかといえば、あてはまる。			21	60%				
3 どちらかといえば、あてはまらない。			1	3%				
4 あてはまらない。			1	3%				
②スマホやタブレットなどを利用したインターネットを利用するときに、ルールやマナーを意識して、安全に利用している。			計452人		A+Bが96%	99%	生徒	
1 あてはまる。			296	83%				
2 どちらかといえば、あてはまる。			137	16%				
3 どちらかといえば、あてはまらない。			14	0%				
4 あてはまらない。			5	0%				
③学校は、スマホやタブレットなどを利用したインターネット上でのルールやマナーの指導を、保護者と協力して取り組んでいる。			計415人		A+Bが71%	70%	保護者	
1 あてはまる。			70	17%				
2 どちらかといえば、あてはまる。			224	54%				
3 どちらかといえば、あてはまらない。			52	13%				
4 あてはまらない。			12	3%				
5 わからない。	57	14%						
<p><課題> ○教員、生徒、保護者の全ての結果が下がっている。これは学校全体の取り組みが弱いのが原因だと考えられる。</p>								
<p>○今までは、「ひまわり教室」等、数回の特別な場で指導・支援をしてきたが、学活や特別活動などで、学年やクラス単位でも指導・支援をする機会を増やしていく。 ○指導部から定期的に指導・支援についての研修の場を設定する。 ○事例に追われることが多いので、未然に防ぐことができるように情報共有や保護者との連絡を密にする。</p>								



項目	具体的取組	アンケート（設問と回答）		アンケート結果		判定結果	R5年度	回答者
		人数	割合	人数	割合			
① 道徳授業の充実、人権を尊重し、相手を思いやり、協力する学級・学校づくり	① 日々の教育活動を通して、望ましい人間関係ができるような集団づくりに努めている。	計37人				A+Bが 100%	97%	教職員
	1 あてはまる。	20	54%					
	2 どちらかといえば、あてはまる。	17	46%					
	3 どちらかといえば、あてはまらない。	0	0%					
	4 あてはまらない。	0	0%					
	② 学校生活の中で、相手を思いやり、他の子と協力して様々な活動に取り組んでいる。	計452人				A+Bが 98%	98%	生徒
	1 あてはまる。	289	64%					
	2 どちらかといえば、あてはまる。	154	34%					
	3 どちらかといえば、あてはまらない。	7	2%					
	4 あてはまらない。	2	0%					
	③ 学校は、学校行事、学年行事などのさまざまな機会を通して、思いやりの心や協力する気持ちを育てる集団づくりを行っている。	計415人				A+Bが 90%	79%	保護者
	1 あてはまる。	141	34%					
	2 どちらかといえば、あてはまる。	231	56%					
	3 どちらかといえば、あてはまらない。	6	1%					
	4 あてはまらない。	3	1%					
5 わからない。	34	8%						
<p><成果></p> <p>○HPや便り等の情報やHome&Schoolでの連絡等、学校の取り組みを知る保護者が増えたことから、昨年度に比べて、A+Bが11%増えた。</p> <p>○設問文を昨年より短くしたことで、保護者が質問の内容を理解し「わからない」という回答が減った。</p> <p>○学校行事、学年行事での心の教育に関する活動の様子を、学年だよりやHP等で、積極的に保護者に発信していく。</p>								
② 体験活動、ポジティブ教育を取り入れた、道徳・特別活動の充実	① 道徳や特別活動、短学活の時間を活用し、一人一人が安心でき、所属感のある学級づくり、集団づくりに努めている。	計20人				A+Bが 100%	100%	教職員
	1 あてはまる。	13	65%					
	2 どちらかといえば、あてはまる。	7	35%					
	3 どちらかといえば、あてはまらない。	0	0%					
	4 あてはまらない。	0	0%					
	② 学校には、自分の役割や居場所がある。（教室・委員会・部活動など）	計452人				A+Bが 98%	98%	生徒
	1 あてはまる。	341	75%					
	2 どちらかといえば、あてはまる。	104	23%					
	3 どちらかといえば、あてはまらない。	4	1%					
	4 あてはまらない。	3	1%					
	③ 学校は、学校生活を通して、よりよい集団づくりに取り組んでいる。（授業・委員会・学校祭・部活動など）	計415人				A+Bが 90%	87%	保護者
	1 あてはまる。	156	38%					
	2 どちらかといえば、あてはまる。	219	53%					
	3 どちらかといえば、あてはまらない。	6	1%					
	4 あてはまらない。	3	1%					
5 わからない。	31	7%						
<p><成果></p> <p>○学校行事や学校公開、部活動の試合やコンクール応援等で学校の取り組みを知る保護者が増え、昨年度に比べてA+Bが微増した。</p> <p>○設問文を昨年より短くしたことで、保護者が質問の内容を理解し「わからない」という回答が減った。</p> <p>○学校や学年行事における活動の様子について、学年だよりやHP等で積極的に保護者に発信していく。</p>								
③ 保健・安全教育と食育による健全な身体づくり	① 生徒の心身の健康に注意を払い、保健・安全教育に努めている。	計38人				A+Bが 100%	100%	教職員
	A あてはまる	26	68%					
	B どちらかといえば、あてはまる	12	32%					
	C どちらかといえば、あてはまらない	0	0%					
	D あてはまらない	0	0%					
	② 自分自身の心や体の健康状態に気づき、健康で安全な生活に心がけている。	計452人				A+Bが 95%	94%	生徒
	A あてはまる	275	61%					
	B どちらかといえば、あてはまる	155	34%					
	C どちらかといえば、あてはまらない	19	4%					
	D あてはまらない	3	1%					
	③ 学校は、子どもの安全確保や健康管理のための取り組みを行っている。（交通安全教室・街頭交通指導、健康指導、保健だより・給食だよりなどの配付やホームページへの掲載）	計415人				A+Bが 90%	89%	保護者
	A あてはまる	144	35%					
	B どちらかといえば、あてはまる	231	56%					
	C どちらかといえば、あてはまらない	9	2%					
	D あてはまらない	1	0%					
E わからない	30	7%						
<p><成果></p> <p>○HPや各便り等より、学校の取り組みを知る保護者が増え、昨年度に比べてA+Bが微増した。また、保護者が質問の内容を理解し「わからない」という回答が減った。</p> <p>○生徒に関して、昨年より評価の目標指数や判定基準の数値が高くなったことから、数値変更（80→90）する。</p> <p>○学校や学年行事における活動の様子について、保健だよりやHP等で積極的に保護者に発信していく。</p>								

健やかな体と心



令和6年度 三国中学校 学校評価

項目	具体的取組	アンケート (設問と回答)		アンケート結果		判定結果	R5年度	回答者
		人数	割合	人数	割合			
①学校だより、ホームページ等による積極的な情報発信	①学校だより (学年通信、生徒指導部だより、保健だより、図書館だより) やホームページ等を通して積極的に情報を発信している。	計38人		A+Bが 95%	97%	教職員		
	A あてはまる。	18	47%					
	B どちらかといえばあてはまる。	18	47%					
	C どちらかといえばあてはまらない。	1	3%					
	D あてはまらない。	1	3%					
	②学校だより (学年通信、生徒指導部だより、保健だより、図書館だより) から、今後の活動の情報を得ている。また、ホームページで活動の様子が掲載されていることを知っている。	計452人		A+Bが 81%	83%	生徒		
	A あてはまる。	203	45%					
	B どちらかといえばあてはまる。	165	37%					
	C どちらかといえばあてはまらない。	67	15%					
	D あてはまらない。	17	4%					
	③学校は、教育活動を適切に伝えている。(ホームページ、Home&School、学年通信、生徒指導部だより、保健だより、図書館だよりなどで)	計415人		A+Bが 92%	91%	保護者		
	A あてはまる。	175	42%					
	B どちらかといえばあてはまる。	205	49%					
	C どちらかといえばあてはまらない。	12	3%					
	D あてはまらない。	1	0%					
E わからない。	22	5%						
<p>〈成果〉</p> <p>○Home&Schoolアプリでの連絡が定着してきた。</p> <p>○アプリの連絡帳機能を利用して、保護者と担任の連絡がスムーズになり、迅速な対応につながった。</p> <p>○ホームページを見ている保護者が増えてきた。</p> <p>〈課題〉</p> <p>○ホームページに掲載するデータ作成について、検討する必要がある (内容の精選)。</p> <p>○ホームページとHome&Schoolとのすみ分けをする必要がある。</p> <p>○アンケートが多すぎるという保護者の意見がある。</p> <p>○学校で行うアンケートについては、まとめられるものはまとめて行うよう内容を考えていく。</p>								
②家庭・地域・他校種への学校公開を充実	①学校公開の際には保護者から信頼を得ることを意識し、授業や学校行事に取り組んでいる。	計37人		A+Bが 100%	100%	教職員		
	1 あてはまる。	22	59%					
	2 どちらかといえば、あてはまる。	15	41%					
	3 どちらかといえば、あてはまらない。	0	0%					
	4 あてはまらない。	0	0%					
	②学校公開 (体育祭、授業参観) の時には、意欲的に取り組み、信頼される三中生となるようがんばっている。	計452人		A+Bが 97%	96%	生徒		
	1 あてはまる。	281	62%					
	2 どちらかといえば、あてはまる。	156	35%					
	3 どちらかといえば、あてはまらない。	8	2%					
	4 あてはまらない。	7	2%					
	③学校は、学校行事や授業などの教育活動を、積極的に公開している。(体育祭や学校公開による授業公開など)	計415人		A+Bが 97%	95%	保護者		
	1 あてはまる。	223	54%					
	2 どちらかといえば、あてはまる。	178	43%					
	3 どちらかといえば、あてはまらない。	4	1%					
	4 あてはまらない。	0	0%					
5 わからない。	10	2%						
<p>〈成果〉</p> <p>○保護者の理解を得ることができた。</p> <p>○各行事担当で、実施要項の見直しをはかり、保護者の見学参加について検討して、次年度に引き継ぐ。</p> <p>○①②については、外部への発信に関することであるので、生徒への質問が必要かどうか検討する。</p>								
③「地域と進める体験推進事業」の推進により、ふるさと三国に誇りや愛着を持つ生徒の育成	①ふるさと三国や福井に愛着を持つ生徒の育成に努めている。	計36人		A+Bが 94%	100%	教職員		
	1 あてはまる。	14	39%					
	2 どちらかといえば、あてはまる。	20	56%					
	3 どちらかといえば、あてはまらない。	2	6%					
	4 あてはまらない。	0	0%					
	②ふるさと三国に誇りや愛着があり、地域に役立つことをしたいと思う。	計452人		A+Bが 90%	93%	生徒		
	1 あてはまる。	201	44%					
	2 どちらかといえば、あてはまる。	206	46%					
	3 どちらかといえば、あてはまらない。	33	7%					
	4 あてはまらない。	12	3%					
	③三国祭への参加、海岸清掃活動、資源回収など、地域の活動、ボランティア活動や奉仕作業に参加している。	計452人		A+Bが 76%	67%	生徒		
	A あてはまる。	160	35%					
	B どちらかといえばあてはまる。	185	41%					
	C どちらかといえばあてはまらない。	62	14%					
	D あてはまらない。	45	10%					
④学校は、ふるさと三国に誇りや愛着をもつ生徒を育成するための活動を、できる限り取り組んでいる。(1年総合「Re:born～持続可能な三国をつくろう～」、2年総合「三国インフルエンサーになろう」、3年総合「I Love Mikuni I know Mikuni」、進路 三国高校生徒との交流「ようこそ先輩」)	計415人		A+Bが 84%	84%	保護者			
A あてはまる。	134	32%						
B どちらかといえばあてはまる。	214	52%						
C どちらかといえばあてはまらない。	6	1%						
D あてはまらない。	3	1%						
E わからない。	58	14%						
<p>〈成果〉</p> <p>○地域の人が学校で情報発信を行った。</p> <p>〈課題〉</p> <p>○地域の活動やボランティア活動について、進んで参加している生徒がまだまだ少ないのではないかな。</p> <p>○総合的な学習の時間等、地域に目を向ける学習の中で、地域の活動やボランティア活動に主体的に参加するような仕掛けを取り入れていく。タイムリーな時期に説明を。</p>								

信頼される学校

